公益社団法人 静岡県山林協会

森と人

2015年
361
5月15日

県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!

■表紙写真　題名：家族の茶園　撮影場所：静岡市葵区有東木　撮影者：綾木　恵子 氏（静岡市葵区）

INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL：http://www.moritohito.jp

2 平成27年度森林・林業関係主要予算

3 首長は語る（No.41）
大井川の恵みに育まれた島田市

4 支部だより①
美しい里山づくりを目指して

5 支部だより②
森林組合５年生

6 県庁だより①
“ふじのくに”に広がる県産材利用の輪

7 県庁だより②
公共造林事業 ～平成27年度の補助事業の取組の方向～

8 本部情報（告知版）
平成27年度しずおか森林写真コンクール応募要領

8 事務局だより

平成27年度 森林・林業関係主要予算

（単位:千円）

部局名	担当課	事業名	予算額
交通基盤部 森林局	森林計画課	森林整備事務費	35,118
		森林整備加速化・林業再生事業（森林整備）	33,257
		森林整備加速化・林業再生基金積立金	117
		森林関係団体事業費助成	5,040
		県単独森林整備事業費助成（付増）	35,864
		農山漁村地域整備交付金事業費（森林）	1,172,000
		森の力再生事業費	1,282,000
		森林・林業再生推進事業費	28,200
		［未利用木材等活用推進事業（新規）］	21,000
	森林整備課	造林事業費	908,000
		水土保全森林緊急間伐対策事業費助成	19,941
		しずおか林業再生プロジェクト推進事業費	84,000
		森林整備地域活動支援事業費	84,400
		森林整備地域活動支援基金積立金	156
		県単独森林病害虫獣総合対策事業費	43,200
		スギ等花粉発生源対策事業費	3,600
		県営林道整備事業費	545,000
		団体営林道事業費	178,000
		集落間林道整備事業費	60,000
		県単独林道事業費	426,000
		社会環境基盤重点林道整備事業費（地方特定）	192,000
		中山間地域林業整備事業費（山村道路網整備）	162,000
		資源循環林地整備事業費	21,112
		海岸防災林再生苗木供給体制構築事業費	1,845
		三保松原の森林保全技術支援事業費（新規）	20,000
		木材生産平準化促進実証事業（新規）	1,000
		団体営過年災害林道復旧費	42,000
		現年災害林道復旧費	2,000
		団体営現年災害林道復旧費	415,000
	森林保全課	保安林整備事業費	15,350
		林地開発許可制度実施費	1,584
		治山事業費	1,243,000
		緊急治山事業費	501,000
		林地崩壊対策事業費	3,000
		県単独治山事業費	957,000
		国直轄治山事業費負担金	390,000
		過年災害治山施設復旧費	0
		現年災害治山施設復旧費	888,000

部局名	担当課	事業名	予算額
交通基盤部 河川砂防局	砂防課	治山地すべり防止事業費	220,000
		緊急治山地すべり防止事業費	65,000
		県単独治山地すべり防止事業費	74,000
		豪雨対策緊急整備事業費	50,000
経済産業部 農林業局	林業振興課	林業労働総合対策事業費	0
		林業を支える元気な担い手支援事業費	21,200
		ビジネス林業促進事業費	32,280
		林業振興総合推進費	14,920
		地域の製材工場等ネットワークづくり促進事業費（新規）	3,800
		県産材輸出促進事業費	2,000
		林業関係団体事業費助成	12,920
		森林を守り育てる人づくり推進事業費助成	31,000
		林業近代化資金利子補給金	9
		森林整備加速化・林業再生事業費（林業振興）	100,000
		林業・木材産業構造対策事業費助成	7,500
		中山間地域林業整備事業費助成（就業機会創出）	12,000
		住んでよし　しずおか木の家推進事業費助成	200,000
		公共建築物木使いモデル事業費	0
		間伐材搬出奨励事業費助成	126,000
		林業改善資金特別会計繰出金	0
くらし・環境部 環境局	環境政策課	環境教育推進事業費	6,000
		地球に優しい"ふじのくに"推進事業費	3,026
	環境ふれあい課	県民参加の森づくり推進事業費	10,300
		県有林管理事業費	41,114
		自然ふれあい施設管理運営費	29,000
		自然ふれあい施設管理運営費Ⅱ	99,800
		自然ふれあい施設再整備事業	83,400
		グリーンバンク事業費助成	105,000
		芝生文化創造プロジェクト事業費	9,300
		緑化推進事業費	1,356
		団体事業費補助（公益社団法人静岡県緑化推進協会）	2,480
		団体事業費補助（公益社団法人静岡県造園緑化協会）	1,620
	自然保護課	特定鳥獣安全捕獲特別対策事業費	6,100
		生物多様性地域戦略策定事業費	22,000
		野生鳥獣緊急対策事業費	86,400
		富士山環境保全推進事業費	23,000
		自然環境保全総合対策事業費	13,594
		野生生物保護管理推進事業費	31,654

首長は語る

No.41

大井川の恵みに育まれた島田市

島田市長　染谷　絹代

島田市の自慢

市長は、日本各地や海外での豊富な経験を経て島田市民となりました。そんな体験から島田市の自慢について語っていただきました。

島田市は、大井川の恵みにより栄えてきたといってもいいと思います。大井川に橋がなかった頃、大雨で水かさが増すと「川止め」となり、旅人は何日も島田宿で待たなければならなかった。資料によると、40日も川止めとなったことがあると記録されています。その分宿泊費も余分にかかり、旅人には経済的な負担は重かったと思いますが、反面、島田宿としてはおおいに繁栄したとも言えます。

▲島田髷祭スナップ

島田髷まつり

島田宿のこの経済的なゆとりが、今に残る「島田髷まつり」や「島田大祭(帯祭)」を生み出された元となったと思います。

島田髷の由来は諸説ありますが、島田市出身の遊女「虎御前」が初めて考案したとされています。「虎御前」を偲ぶ祭りから「島田髷まつり」に発展してきました。毎年９月の第３日曜日に、約80名の髷娘達が、お揃いの浴衣で奉納踊りを舞う「髷道中」を繰り広げます。その際、かつらを使用する者は少数で、ほとんどの参加者が地毛で日本髪を結っています。

▲大祭スナップ

島田大祭（帯祭）

江戸元禄期に始まった大奴が帯を披露しながら練り歩く「島田大祭」は、全国的にも珍しく日本三奇祭のひとつにも数えられています。島田大祭は、この大奴だけでなく、各街の屋台で踊る上踊も見逃せません。この踊りは幼児が主役となり、お師匠の指導のもと練習を重ね、芸人による長唄や三味線、お囃子に合わせ可愛らしい踊りを披露します。３年に１度の開催となる島田大祭は、「帯祭」の他に「長唄祭り」とも呼ばれ、一流の長唄芸人が集うお祭りでもあり、祭り期間の３日間は50万人もの来場者で賑わいます。

これらの文化・伝統により、島田市には今でも日本髪を結える結髪師が約20名もいます。また、他の市町に比べ呉服屋や和菓子屋が多いのも島田市の特徴だと思います。

このように、島田市には江戸期からの文化と伝統が綿々と息づいて今に至っていることは、本当に素晴らしいことだと思っています。

「木都」島田

島田市は、上流域で伐られた材木が集まる「木都」として繁栄してきました。森林は、先人からの貴重な財産だと思います。これからも整備保全を進め、大切に守っていかなければなりません。そのためには、大井川材のブランド化を図り、木材の利用を進めることが大切だと思います。市では、公共施設に率先して地域材を利用しています。例えば、川根温泉のスギ材による100㌧貯湯タンク（日本最大）や同ホテルの内装、川根小学校、公立図書館などです。地域材の利用を進めることにより、島田市は「木都」としての潜在的な力を秘めた地であり続けると思います。

▲100㌧貯湯タンク

おわりに

市長は日々の疲れの癒しとリフレッシュを図るため、ご主人と里山を散策するのを楽しみにしているそうです。特に冬の凛とした青空のもと、カサカサと落ち葉を踏みゆく時、裸木たちの春の準備をしている姿がとても愛おしく感じるそうです。

支部だより①

美しい里山づくりを目指して

下田市産業振興課　安藤　友翼

下田市からは、「里山」の魅力・「美しい里山づくりプロジェクト」について紹介していただきました。

里山とは何か？

「里山」のイメージといえば、幼少の頃かけまわった、ふるさとの自然豊かな田園風景・・・と思い浮かぶものはあるかと思うが、わりと馴染みのある言葉でもあるのにも関わらず、「里山」という言葉は広辞苑には載っていない。環境省によれば、「原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域」と定義がなされているそうだが、「里山」を明確にイメージするにはどうしたらよいのか。

恵まれた自然や歴史

古き良き里山風景が残っている箇所として、下田市には稲梓地域がある。山あいに広がる田園地帯の中に、伝統的な瓦屋根の家屋がぽつぽつと立ち並んでいる様は、どこか昔懐かしい趣を感じさせる。特に、稲作の時期になると、下の写真にように緑と青のコントラストが映えて、美しい風景が形成される。人の営みと豊かな自然が融合して生み出された産物だ。

▲稲梓地域の里山風景

また、風景以外にも、里山では、人の営みと豊かな自然が融合している様を垣間見ることができる。

例えば、地元の人が運営する小さな売店には、地元で収穫された農作物が美味しそうに陳列されている。

それらは自然の恵みをうけて、新鮮でみずみずしく、地元の人の愛情がたっぷりと注がれている。聞くところによれば、早朝、地元の農家の方が持ってきた、採れたての野菜やお米だという。

里山の魅力は、こんなところにもある。河津と下田の境にある小鍋峠古道は、寛政５（1793）年の伊豆巡検の際、時の老中松平定信が歩いた道であり、安政４（1857）年にも、米国の初代駐日総領事タウンゼント・ハリスが江戸に向かう道中で、この地を踏みしめた。教科書に登場する過去の偉人たちも歩いた歴史のある道だ。彼らもまた同じ里山風景を眺め、旅の疲れを癒していたのだろうかと想像するのも一興である。歴史に思いを馳せながらの里山散策もいい。

▲小鍋峠

これからの美しい里山

「里山」とは、景観性、地域性、風土性、歴史性を兼備し、人々の営みに密接に結びついた親しみのある地域である。エレガントできらびやかな大都会の風景とは対極をなし、簡潔質素に、整然と佇み、自然と溶け込んで調和している。我々日本人に古くから根付く美意識に働きかけるからこそ美しく感じるのだと思う。

一方で、経済の効率化を求めるあまり、里山は存在意義をなくし、長らく放置されてきた現実がある。

「森林の荒廃・竹林化」や「耕作放棄地の増加」「鳥獣被害」など、地域全体で向き合っていかなければならない課題は山積している。

▲荒廃した里山

観光が盛んな下田市には、「下田市観光まちづくり推進計画」というものがある。この中で、「美しい里山づくりプロジェクト」と称したプロジェクトが現在進行中だ。これは文字どおり里山の魅力ある地域資源を掘り起こし、観光にもいかしていこうという試みであり、当計画の重要な柱の一つに位置づけられている。

ある民謡の中で、「伊豆の下田に長居はおよし、縞の財布が軽くなる」と歌われているそうだ。下田市が目指すのは、歌詞にあるような皆が訪れたくなる魅力ある「美しい里山」の実現です。

支部だより②

森林組合５年生

森林組合おおいがわ　清水　　匠

森林組合おおいがわからは、森林組合に入社して５年を経過してみて、林業に関する思い、山里についての思いについて紹介いただきました。

私が森林組合に入社してもうすぐ５年が経とうとしています、実家は元林家であったものの、私が物心付く前に他事業に移ってしまっていたため、林業とはどのようなものなのか、ということは分からないままこの世界に入りました。

その頃の林業のイメージというのは、チェーンソーや草刈機を使うにしても基本的には人の力を使って木を植え、草を刈り、間伐をし、ある程度育ったら架線を使い皆伐をするという流れのゆったりとした時間の中で、行っていくものだと考えていました。

しかし、この世界に入ってみると実際のところは大きくイメージと違っていました。もちろん人の力による所がまだまだありますが、大型の高性能林業機械を使い、道を開設し造材し運搬するなど機械化が進んでいました。時間の流れに関しても、ゆったりとは程遠いノルマと色々なものに追われる毎日を過ごしています。ただ、この毎日も最初はとまどいましたが、先輩たちの力を借りながら少しずつやりがいが出てきたところです。

また、この５年の中でもう一つ感じたのは、山里の衰退とそこに住んでいる方たちの辛さや苦悩でした。よく耳にするのは、「山の木を一年に３反歩売っていれば生活がなりたっていたのにな～。」や「みかんをコンテナ１ケース売るだけで何人かで一晩遊ぶことが出来たのにな～。」だったり「昔は自宅に木材の業者がきて、そこで入札をするくらい景気が良かったな～。」といった昔はよかったという話です。またその後には、「けれども今は、状況が変わってしまい本当につらい状況になってしまったし、ここに住むのも自分の代までかな？」という言葉がついてきます。

確かに自分の生まれ育った伊久美地区でも、若者がかなり少なくなってしまっているのが現状です。本来の地場産業でもある、お茶農家であったりシイタケ農家であったり、林業を専門で営んでいるという方はほんの一握りになってしまっていると肌で感じるようになっています。もし、この様な状況が続けば、いつかはこの生まれ育った故郷はなくなってしまうのではないだろうかと感じる時もあるくらいです。

しかし、この厳しい状況の中でも、経営として成功している例も多くあるのも事実ではないでしょうか。またそれらは、若輩者なりに見てみると自分たちの持っている資源などの魅力を知っていて、その魅力を世の中のニーズに合わせてうまく生かせているのではないかと感じます。またそのどこを見てみても、現状維持では満足せずに常にチャレンジを欠かしていない様に思います。

こういった成功例の後に続く為には、どのようにすればよいのか考えてみると、まだまだ自分たちの故郷には多くの魅力がたくさんあることに気が付きます。それらは子供の頃は全く感じなかったのですが、一度そこから離れてみると感じたものでした。夜の心地良い静寂感であったり、空を見上げると降ってこんばかりの満天の星空であったり、朝のなんともいえない空気感であったり、四季折々にガラリと変化する風景などに代表される雄大な自然環境でした。

また、森林組合の職員として考えてみると、自分たちの先代・先々代が苦労して植え育てて来た膨大な量の資源でもある木材が山に眠っているのではないでしょうか。しかし、現状のままではやがては荒廃してその価値を失ってしまうのです。それを食い止めて更に価値を上げて有用なものにしていくことが自分の役目ではないだろうかと感じます。まだどのようなことが必要なのかまだまだ若輩者なのでここに書くことはできないのですが、常に現状維持で満足するのではなく、世の中の動きに合わせてチャレンジして行くことは忘れずに、この山里を森林組合の仕事を通して守って行かなくてはならないでしょう。

そしていつか「昔はよかった」けれども今は、ではなく「昔は大変だった」けれども今は田舎暮らしも捨てたものではないよ。と笑って話ができるようになれば最高だなと思っています。

県庁だより①

“ふじのくに”に広がる県産材利用の輪

経済産業部　農林業局　林業振興課

“ふじのくに　しずおか木使い推進プラン”に基づいた、平成26年度に新たに木造・木質化が図られた主な県有施設をご紹介いただきました。

県では、“ふじのくに しずおか木使い推進プラン”に基づき、全庁を挙げ、積極的に県産材利用を進めています。

平成26年度に新たに木造・木質化が図られた主な県有施設を紹介します。

このはなアリーナで

草薙運動場新体育館「このはなアリーナ」（静岡市駿河区）では、高強度の同一等級のラミナで構成されたスギ集成材による“巨大な柱”が屋根を支えています。また、天井ルーバーや入口ゲートなどの内装もスギやヒノキで彩りました。使用された県産材は約940㎥に及びます。こけら落としイベントの「大相撲　富士山静岡場所」には多くの人が集まるなど、今後、県産材のＰＲに大きな役割を担ってくれることでしょう。

▲このはなアリーナ

県立高校・大学で

新設した浜松湖北高等学校（浜松市北区）及び掛川特別支援学校（掛川市）では、柱などの構造材にスギ集成材を用いて体育館の木造化を図りました。校舎にもふんだんに県産材を使っており、木の温もりがあふれる学び舎となっています。

旧吉田高校を改修し、平成27年４月から新たに開校した吉田特別支援学校（吉田町）では、施設改修にあたり、エントランスホールや廊下壁面に大井川地域のスギ板を使用しました。また、プレイルームには壁面に加え、床にもスギ板を敷き詰めました。

静岡県立大学（静岡市駿河区）では、平成27年３月に新たに完成した新看護学部棟のカレッジホールの天井及び床、各階の廊下と階段の床にヒノキ板を使用しました。また、２階にはガラス張りの廊下のルーバーにもヒノキ板を使用しており、屋外からもガラス越しの木材が映える建物となっています。

▲浜松湖北高等学校

総合庁舎などで

平成26年12月に開設した県庁内一時預かり保育施設（愛称：ふじさんっこクラブ）では、子どもたちが直に触れる床や腰壁にヒノキ板を使用しました。足触り感や手触り感が楽しめ、視覚的にも優しい木質空間となっています。

富士総合庁舎（富士市）では、１階エレベーターホール及び展示資料室に富士地域で育まれたヒノキを使用しました。中でもエレベーターホールは、ヒノキの木目の美しさを活かした格子状のデザインとなっています。

このほか、ふじのくに地球環境史ミュージアム（静岡市駿河区）、男女共同参画センターあざれあ（静岡市駿河区）、中遠総合庁舎（磐田市）などにおいても内装の木質化を行いました。

▲ふじさんっこクラブ

市町や民間での広がり

現在、全ての市町でそれぞれ独自に木材利用推進計画が策定され、各地域で建築物の木造・木質化を進める機運が一段と高まっています。

駿府城公園 坤櫓（ひつじさるやぐら）や磐田市北部地域包括支援センター、島田市消防団第15分団詰所などの施設で木材が利用されています。建築担当職員自ら木造設計にチャレンジする動きも見られています。

民間では、まかいの牧場の農産物加工所（富士宮市）や清水障害者サポートセンターそら（静岡市清水区）、伊豆箱根鉄道の修善寺駅舎（伊豆市）や春華堂の浜北スイーツ・コミュニティ「nicoe」（浜松市浜北区）、遠州信用金庫の中野町支店（浜松市東区）など、幅広い分野の建築物に地域の木材が利用されています。

おわりに

このように、県民が身近に使用する建築物に県産材を利用する動きは、県や市町、民間で着実に広がっています。地域の豊富な森林資源を用いた木造・木質空間が一つでも多く誕生し、“ふじのくに”に県産材利用の輪が広がるよう取り組んでいきます。

県庁だより②

公共造林事業
～平成27年度の補助事業の取組の方向～

交通基盤部森林局　森林整備課

国の森林整備に対する流れ、平成27年度の補助事業の動向・方針について紹介いただきました。

はじめに

国では、地球温暖化防止等の森林の多面的機能を発揮するため、森林環境保全直接支援事業（以下、「直接支援事業」という。）等の公共事業により、間伐等の森林整備を年間52万ha進めることを目標にしているところです。

同時に、地域材の安定的・効率的な供給体制の構築、地域材の利用促進などの施策を進め、森林資源の循環利用促進による「林業の成長産業化」を目指しています。

こうした流れの中で、本県では、平成24年度より「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」により需要と供給を一体的に創造し、本県の林業を強い産業にすることを目指し、関係者の皆様と一体的な取組を進め、一歩一歩前進してきたところです。

今後も、この流れが減速しないようにしなければなりません。

補助事業の動向

少子高齢化などの影響により公共事業予算は、大きな期待はできません。

既に平成27年度の直接支援事業における国の割当額は、昨年の事業実績の７割程度に圧縮されている状況です。国では、この不足分以上を森林整備加速化・林業再生事業（以下、「加速化事業」という。）により、各県に予算割当を行ったところですが、直接支援事業と比較して補助額の上限も低いことから、どのように本事業を活用して計画的かつ確実に整備量を伸ばしていくかが、今後の課題と考えております。

間伐関連事業の適用方針

このため、本年度は様々な間伐や路網整備事業を活用しながら、直接支援事業と加速化事業の優位性を最大限に引き出すような事業適用の方針を下表のとおり定めましたので、積極的な取組と御協力をお願いします。

終わりに

林業を取り巻く公共事業予算は、今後も厳しい状況が予測されますが、基盤整備を進めることで足腰を鍛え、どのような変化にも耐え得る強い産業になることを目指し、今後も、歩みを止めずに一丸となって取り組みましょう。

H27年度間伐関連事業の適用方針

1　直接支援事業の見直し

（1）標準単価の見直し

①間伐単価の搬出量上限を80㎥／haとした。

H26年度まで：100㎥／ha

H27年度：80㎥／ha、将来：50㎥／ha

②間伐林分の標準地として11齢級を境に単価設定を２区分とした。

H26年度：標準林分43年生

H27年度：標準林分43年生と68年生

（2）事業採択の方針

①利用間伐の補助を優先するため、原則、路網整備、枝打ちは採択しない。

＊H27特例：直接支援事業で路網整備を補助対象とする要件

・梅雨時（４月～８月）に木材搬出を行う箇所の路網整備は採択可。

・H26年度内に事業が完了している路網整備は採択可。

・ただし、*直接支援事業と加速化事業での路網整備の実施の判断は、農林事務所と調整することができるものとする。*

②原則、木材搬出量50㎥／ha以上を見込める利用間伐を採択する。

③直接支援事業の予算配分は、森林経営計画に基づき事業を実施する個所や梅雨時（４月～８月）に木材搬出を行う箇所には配慮する。

＊上記の審査は、事前計画書及び加速化事業申請書により行う。

2　他事業の積極的活用

①加速化事業の積極的活用

・木材搬出材積50㎥／ha 未満の個所は、原則、加速化事業により実施し、路網整備も同事業により実施する。

・しずプロ実施予定箇所においても、採択要件が合致するものは加速化事業により間伐及び路網整備を実施する。

②単独事業の積極的活用

単独林道、市町単独事業等も活用して路網整備を実施する。

告知版

第32回『しずおか森林写真コンクール』

応　募　要　領

☆題　　材　**静岡県内の森林に関わる作品**で、「森林の景観」、「林業・木材産業で働く姿」、「森林整備や森林土木工事の状況」、「森林体験やリクリエーションの様子」及び「森林と一体となった山村や生活の風景」など**森林や林業の素晴らしさ、大切さの啓発に役立つもの**を対象とします。

☆賞 金 等

最優秀賞	（静岡県知事賞）	1点	賞状、賞金５万円
特　　選	（静岡県山林協会長賞）	2点	賞状、賞金３万円
準 特 選	（静岡県山林協会長賞）	5点	賞状、賞金１万円
入　　選	（静岡県山林協会長賞）	20点	賞状、賞金５千円

（賞金は、公益社団法人静岡県山林協会提供）

☆応募規定

1 **平成26年9月以降、静岡県内で撮影された未発表作品**に限る。
2 応募点数は一人５作品まで。
3 サイズは、**四つ切**（ワイド不可。カラー・白黒。３枚以下の組み写真可、デジタル可）。
4 作品の裏面に、題名、撮影地、氏名等を記した**応募票を添付して下さい。**
5 **入賞作品、原版等の使用権は、主催者に帰属します。**
6 被写体人物の肖像権侵害の責任は負いかねます。応募に際しては承諾を得ること。
7 入賞者は、指定された日までに原版（ネガ、ＣＤ等）を提出して頂きます。
8 応募作品は、返却いたしません。

☆締　　切　**平成27年8月31日㈪**（当日消印有効）
☆提 出 先　公益社団法人静岡県山林協会 又は 静岡県写真材料商組合加盟店
☆審　　査　主催者及び主催者が委嘱する審査員で実施
☆審査結果　平成27年９月末までに入賞者宛て通知予定
☆授 賞 式　平成27年10月以降、静岡市内において表彰予定

☆主　　催　**公益社団法人静岡県山林協会**
〒420-8601　静岡市葵区追手町9-6　県庁西館９階
TEL　：054-255-4488
E-mail：sanrinky@vega.ocn.ne.jp

☆後　　援　静岡県、静岡県教育委員会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、静岡県写真材料商組合、富士フイルムイメージングシステムズ㈱

事務局だより

ミス日本みどりの女神が県庁訪問

「2015ミス日本みどりの女神」に選ばれた佐野加奈さんが「緑の羽根募金」PRのため４月７日に県庁を訪れました。「みどりの女神」はミス日本コンテストの新しい賞として今年から始まりました。初代女神の佐野さんは、緑豊かな富士市出身で東京農業大学４年生、さわやかな笑顔の素敵な女性です。みどりの広報大使として一年間全国の緑化関係イベントや５月の第66回全国植樹祭（石川県）などに出演されます。本県でのイベントにも出演が可能とのことですので、会員の皆様も出演依頼をされてはいかがでしょうか。（林）

「森と人」編集・発行
公益社団法人
静岡県山林協会
静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489